

ハンガーゼロ (日本国際飢餓対策機構) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こことからだの飢餓」に応える活動をしています。

フィリピンから 手作りイースターカード

友人や家族へかわいい手作りイースターカードを送りませんか。フィリピンの女性や若者たちの仕事づくりにつながるカードです。カード2枚でお米1.5kgに相当する収入になります。上記の3枚Aセットを送料込み2,000円でお届けします。

イースターカード1枚と「ウシさん缶」チョコレートのBセットは送料込3,000円でお届けします。いずれのセットも2セット以上の場合は送料相当額から300円以上割引。



お支払い：後払いで以下①②
①銀行振り込み ②郵便振替
お申し込み：
(株)キングダムビジネス
スマートフォンは右のQRコードから
電話注文：06-6755-4877



ソルナム親善大使も支援継続

王ボランティア (後列右端) は1月24日、日本からポーランドのワルシャワの支援倉庫に届いたカイロ、パンの缶詰、医薬品などを車に積み込みウクライナ

西部の都市リヴィウで避難生活をしている家族や孤児院などに配布しました。

また親善大使のソン・ソルナムさん (中央) は、2月9日にウクライナ東部激戦地のバフムトに協力者とともに訪れて、人道支援物資を届けました。



【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…●郵便振替 ●ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記

②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



OKUDA DESIGN PROJECT.

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

株式会社
Okuda
〒197-0003 東京都福生市熊川447-9
042(552)0102
インターネットでお部屋探し https://okuda-re.co.jp



サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

ふり氏	がな名	
(TEL)		
住 所	〒	
申込日	年 月 日	NL392号
✓	下記から希望されるものをお申し込みください	
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月 () 円 (1 1,000 円) ②一時募金として 円協力します。	
☐	継続募金 (JIFH サポーター) として協力します。 毎月 () 円 (1 500 円)	
☐	チャイルドサポーター (子ども1人毎月 4,000円) の説明書 (申込書) を送ってください。	
☐	郵便自動引落し申込書を送って下さい。	
☐	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。	

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在…5274口

※記入後にスマホで撮影し下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2023. No.392 3
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています

ハンガーゼロ
Hunger Zero

Friends of Hope
KFHI

速報!トルコ地震緊急支援

P.7



Contents

活動報告/シエラレオネ	P.2
ボリビア小西スタッフ 連載(2)	P.3
ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン報告 地域開発、教育支援、フェアトレード	P.4-5
家族の Story ボリビアのジメナさん	P.6
速報!トルコ地震緊急支援	P.7

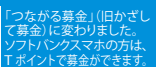
■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.hungerzero.jp
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大 阪
(広島)
東 京
(東北)
愛 知
沖 縄
U S A

〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル 6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,584,606ポイント (円) のご協力 (24,423件) がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

トルコのアンタキヤで緊急キットを配布する様子



資源に恵まれていても飢餓人口は70%以上にも

シエラレオネ共和国は、西アフリカの南西海岸に位置していて西には大西洋があり、ダイヤモンド、金、鉄鉱石などの鉱物資源の他、木材製品、農産物、魚類などの天然資源が豊富です。また雨季と乾季が6ヵ月ずつで、農業に適した地域でもあります。

しかし1991～2002年の間激しい内戦が続き、さらに2014～2016年のエボラ出血熱の流行で多くの人が亡くなって、子どもたちが路上に残されました。この内戦とエボラ出血熱の流行の後で起こったコロナの大流行は、シエラレオネを含む貧しい国の経済をさらに困難に落とし入れました。シエラレオネは資源に恵まれているにもかかわらず病気、栄養失調、飢餓が人口の70%以上にも及び、貧しく、人々の必要に応える持続可能な開発を進めることは不可能に見えました。

国際飢餓対策機構から新しいプログラム

シエラレオネの人々は皆希望を失い、将来への不安にかられていました。しかし2021年7月、ハンガーゼロの海外パートナーのFHIF（国際飢餓対策機構／写真⑥）によって新しいプログラムが紹介されたことで、人々に未来への希望が芽生えました。暗がりの中の希望の光でした。

コヤ首長国にあるマコロ村、マラル村、ソング村のコミュニティがこのプログラムの対象地域として選ばれました。そのうちの一つ、シエラレオネの首都フリータウンから約30km離れたマコロ村では、女性のほとんどが未亡人、シングルマザー、および戦争の犠牲者で、女性が家族のために懸命に働いていましたが、家計のやりく



りは非常に困難でした。

女性リーダーが変化をもたらす

貧困から抜け出す方法として、コミュニティと農業に関するビジョンが彼らに紹介されました。彼らは学習が速く、そのうちの1人はとても優秀で、彼女が女性たちの行動の変化を起こし始めました。彼女の名はラマトウ・フォファナ！彼女は人々を奮い立たせて農作業を行い、チームのリーダーとして働きました。20エーカー以上の広大な土地を開拓し、米、キャッサバ、ピーマン、キャベツ、スイカなどさまざまな作物を植えました。そして、素晴らしい収穫が与えられました。新たな始まりです。これらの女性は今や農業活動を通じて食料を家族に提供しています。今シーズンは活動を拡大し、より多くのグループを育てる予定です。先駆的なグループは自給自足の実現と収益性のある農業に取り組んでいます。この農業活動の支援を可能にくださった皆様のご支援を感謝いたします。



報告：ジェロム・カセバ（アフリカ地区担当）

ハンガーゼロサポーターになって
シエラレオネを応援してください



連載〈22〉



2018年5月、コンフィタル村に住む当団体サポートチャイルドのルイス・マリオ君（当時12歳）が、脱穀機で左手の指3本を切断して出血多量の危機に陥りました。しかし“お金がかかるから”と、医者連れて行くことを拒んでいた両親をFHB（注）スタッフが説得し、コチャバンバの病院で手術を受けさせました。私たちは入院から快復まで物心両面で支援し彼は元気になりました。

日本人夫妻から支援の申し出

しかし利き手の指3本の指先がない為に、右手で字を書くのに困難を極め中高部に進むにつれて勉強の遅れが出てきました。教師が他の生徒と同じ進度を要求する中、マリオ君に大きなプレッシャーがかかり、2021年に学業を断念してしまいました。

彼と家族のためにスタッフが祈り励まして関わり続け、学校側にも彼への理解と協力を求めた結果、復学することができました。そんな中、日本で私がボリビア報告をしていた際にあるクリスチャンご夫妻が、「ぜひマリオ君を応援したい！」と、特別募金を申し出て下さったのです。

彼には手の障がいによって力のいる農業で生計を立てることができないという将来への不安があったため、“これを奨学金として彼が何らかの技術を取得するために役立てよう”とスタッフは考えました。



変わるもの
と
変わらないもの

ボリビア多民族国
駐在 小西小百合



そしてこの愛の支援をマリオ君に伝えて、様々な技術取得の可能性を示すと彼は「理容師になりたい」という夢を描くようになりました。

優秀な成績で理容師に

その後、学校の長期休みにコチャバンバの町の短期理容専門学校で学び、学校の授業と重なる日はスタッフが学校にかけあって特別許可を得るなどして学び続け、2021年12月に32人中3番目の優秀な成績で修了し表彰されました。翌年5月に家庭訪問をした際にはマリオ君が父親の散髪をする姿を披露（写真⑦）してくれ、「日本の友人の皆さん、お祈りとご支援を本当にありがとう！」と満面の笑顔で言う彼と、息子を見つめるご両親の嬉しそうな顔が忘れられません。



マリオ君家族と小西。両端にFHB 高地担当スタッフのファンさん⑥とエドワルドさん

1人の愛の手と行動が、ひとりの子どもの人生を変え、未来を切り開きます。どうぞこれからもぜひ“ひとりの子ども”へのお祈りとご支援を宜しく願い致します。

まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたし（イエス・キリスト）の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。（聖書）

注）FHB=Food for the Hungry Bolivia
国際飢餓対策機構ボリビア

地域開発支援

【アルサビ村】

アルサビ小学校

昨年の4月に状況確認の時に訪れた時、先生から「今年正式に本校と認可されたことで、ソコロ県政府からの予算で、教務室の建設の予算が確保出来た」と喜んで話してくれました。

その後10月に訪問して驚いたのが、教育省の規格にのったコンクリート製の校舎の建設が始まっていたことです。ただ工事は12月からの雨季で一旦中断したため、完成は2月末以降となる見込みです。



建設中のアルサビ小学校校舎（2教室とトイレ）

アルサビ地区の土地問題の進展

土地問題で残っているのは、教育省へ寄贈する9千坪余りのうち、政府が登録簿を失い、再登記をしないとない部分です。今年になって新たな展開がありました。対象の土地が、政府に認められた「原住民固有の土地」の可能性があり、手続きが止まってしまいました。それが確かにそうだとすると、その土地を管理する管理局と教育省とで合意書が作成され、教育省の土地となります。



私たちロングライフグループは、
ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



0120-550-294

受付時間
9:00～18:00
年中無休

大阪本社／〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社／〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点：北海道／埼玉／東京／神奈川／千葉／静岡／愛知／大阪／兵庫／京都／大分／沖縄／中国（青島）／韓国／インドネシア（ジャカルタ）

村の水問題

村には4カ所に水場があります。2つは学校用、2つは村の人たち用です。村人は水場まで水を汲みに来て、家に持ち帰ります。

学校の先生がホースの先にペットボトルの飲み口の部分を取り付けて水を留められるようにして下さったのですが、幼い子どもたちには閉めるのは難しく、また蓋がなくなることもあります。村の人に水を大切に使うことを学んでもらうためにスタッフは根気強く働きかける一方、皆が話し合ってコミュニティ側の2箇所で、コミュニティの貯蓄からお金を出して蛇口が取り付けられました。

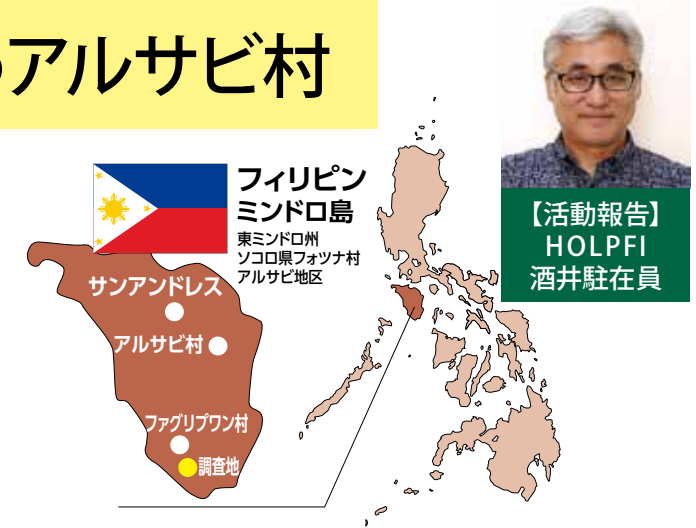
リーダーの資質

来年度の6月でアルサビ村での活動を終了するので、村のリーダーの中から選ばれた4名がVOC（コミュニティがビジョンをもって自らの村を開発する手法）に基づいてコミュニティ開発を導いていけるようトレーニングをしています。トレーニングを受けている4人のうち2人は小学校4年、1人は2年生まで終了した人たちです。スタッフが忍耐をもって、理解できるよう色々と工夫を凝らしています。

持続可能な開発を考える時、住民の人たちが外部からの助けを待ち続けるのではなく、まず自分が率先して与えられた資源を最大限に用いてできることから取り組んでいけるリーダーが育ち、周りの村にも広がっていくことを願っています。

村の様子

久々の村の訪問で一番驚いたのは、子どもの数（2才以下の赤ちゃん）がものすごく増えていたことです。教育省の人が村人に、学校を続けていくにはもっと子どもの数が必要だと伝えたとのこと。これは、アルサビ村以外の人たちに子どもを学校に行くように励ましなさいという意味だったと思うのですが、自分たちの子どもを増やすと理解した結果のようです。



【ファグリブワン村】

ファグリブワン村には2019年から訪問を始めました。西ミンドロ州の南部に位置し、まず最寄りの村で1泊して午前中に山道を歩いて移動します。

支援活動をどのようにするかを計画するために、私たちは1年程度具体的な支援活動はせずに人々の理解に努め



ます。ここもコロナの影響で訪問ができなくなりましたが、2021年にスタッフがワクチン接種に同意し接種記録カードを得たことで訪問が再開できるようになりました。2022年は以前の計画のフォローアップです。新しい考え方や進め方を繰り返し話し理解を深めていきます。

村の様子

この地域に一番近い泉は、乾季には十分な水量がなく、それが一番の課題です。またNPA（新人民軍：共産ゲリラ）も近くにいて、ここの地域の人々の生活の安定は、間接的に彼らに利する可能性もあります。12月は現地から、来ないようという連絡があり、訪問はキャンセルされました。支援の方法についてはより慎重さを要すると考えています。



新年度のオリエンテーション

教育支援

HOLPFIは大学生6名、高校生7名、中学生15名、合計28名（マンヤン25名、タガログ3名）の学生をプログラムを通してサポートしています。

教師、警察官など目標をはっきりと持っている学生やまだ考えていない学生などさまざまですが、将来にビジョンをもって学び、置かれたところでイニシアティブをとり、与えられた能力と環境を最大限に用いて、自分のクラス、家庭、社会に貢献するような人に育って欲しいと願って、年に2回、学びをしています。HOLPFIのスタッフのような、人を助ける仕事をしたい、そのためにソーシャルワーカーになりたい、という奨学生もできました。

運営は保護者の委員会に委ねており、HOLPFIはプログラムの管理の仕方を学んでいただけるようサポートしています。お母さんたちも管理能力を養い、よりよい村造りができるよう励まし合って協力することを学んでいます。

フェアトレード事業

KAPASAの再開

非営利団体の私たちですが、活動をすすめるために一定の収益活動が認められています。私たちのフェアトレード事業の目的は、事業費の捻出と貧しい人たちが始めた収益活動の支援です。

多くのNGOが生活困窮者の為に始め、支援の撤退とともに活動が行き詰まってしまうのが現状です。原因の1つは収益や問題解決能力の不足ですが、これは人々の価値観と無縁ではありません。

それらの反省をもとに、私たちは専任スタッフを雇用して継続的に支援をする事を決めました。今までと違うのは、十分な収益を得られていないグループをサポートして事業が継続できるようにしていくことです。

原住民によるクラフト事業のマーケットは国内外の観光客ですがコロナの影響で現在も観光客の数が回復していません。マーケットの動向を見つ、販路の開拓を進めていく予定です。

クラフトチーム（奥にまとも役のロゼンダさん）



家族の Story



ボリビア

ジメナ ママニ ハンコさんとその家族のお話

学校に戻るためのサポートを続けたFH

FH= 国際飢餓対策機構

● FH が介入する前の家族の問題

ジメナさんは6月の冬休みまでは学校で普通に勉強していました。しかし父親や学校の先生の話では、その後、1ヵ月間授業に出ませんでした。弟は学校に行き続けたそうです。

FH はどのようなサポートをしたか

この地区の担当スタッフのエドワルドとフアン・カルロスがそのことを知り、心配してコチャバンパ地域ディレクターと日本のアドバイザースタッフの小西小百合と一緒に家庭訪問をしました。スタッフたちは、「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない(箴言 22:6)」などの聖書の言葉を用いて家族に教育の大切さ、人格形成について、また将来のビジョンを持つことの重要性を話し、ジメナさんが勉強を続けることができるように家族を励ました。

FH のスタッフは、学校に行かなくなった理由を探るためにジメナさんにアンケートに答えてもらいました。そして、ジメナさんが何度か母親の病気について述べていることから、母親を心配していることを突き止めました。「母は時々病気になるけれど、羊の世話や家事を手伝ってあげる人が誰もいません。そのことが心配で私は授業に出られません。また、不足している物もありますが、父や母には心配をかけたくありません。むしろ、私は両親の助けになりたいのです」と語ってくれました。

15歳のジメナさんは両親と弟2人とアサワニに住んでいます。両親はインゲン豆、オート麦、エンドウ豆を生産して収入を得ています。またFH ボリビアが支援した温室栽培で野菜を育て、羊や豚、鶏などの家畜も飼育しています。食料は収穫した農作物でまかない、砂糖や米などは、余った農作物を売ってコンフィタルの市場で手に入れます。羊の肉を売って他の食料を買うこともあります。



話し合いと祈りの後、ジメナさんは学校に戻ることを決意しました。両親も大喜びでした。8月15日、ジメナさんは再び学校の授業に出席しました。FH のスタッフは、ジメナさんの通う学校の校長先生に会い、ジメナさんのためにサポートを依頼しました。

家族はどのように変わったか

両親は、娘のジメナさんが学校に再び通えるようになったことをとても喜んでいます。最も印象的だったのは、学校の校長が言った言葉です。「どうやったんですか。どのようにしてジメナさんを学校に戻したのですか。もう1人、授業に出ていない子どもがいるのですが、その子のお名前をお知らせしてもいいですか」。スタッフは常にみんなを助ける用意をしています。ジメナさんが再び学校に行き始め、FH スタッフもとても大きな励ましと喜びを感じました。

地震で完全に倒壊したアンタキヤの教会

速報！トルコ地震被災者緊急支援



ハンガーゼロは2月6日の2度の巨大地震によって甚大な被害を受けているトルコの人々を支援するために緊急募金を開始。緊急支援チームを現地に派遣している海外パートナーの韓国国際飢餓対策機構(以下KFHI)に協力しています。

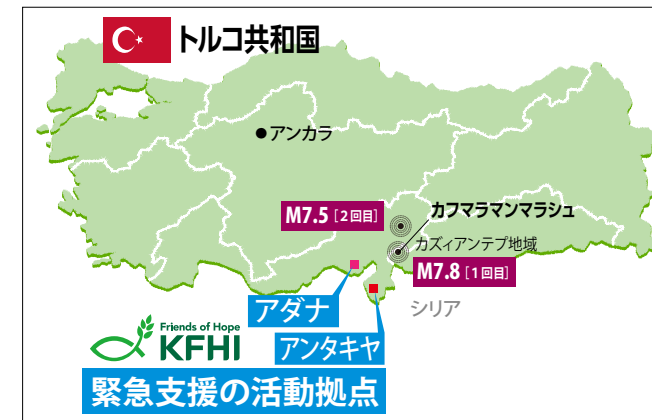
KFHIは現在6名のスタッフ(内1名は韓国政府の主導で構成されたNGOプラットホームに参加)をトルコに派遣しています。KFHIの緊急チームは、震源地カズィアンテブ地域カフマランマラシュからそれぞれ約200km(車で2時間半)にある都市のアダナとアンタキヤに活動拠点を設置して、緊急キットを配布。緊急キットは、飲料水、毛布、牛乳、粉ミルク、菓子、軍手、オムツ、生理用品、歯ブラシなどで、週2回のペースで実施され、これまでに2,200キットが被災者に手渡されました。緊急キットは今後も配布しますが、被災者の聞き取り調査で、冬用ブー



横断幕：KFHI トルコ地震被害緊急支援



KFHI は韓国政府との協力で毛布千枚も支援しました



ツ、簡易暖炉、テントなどの防寒用品を求める声が上がっているのもそれにも応えていきます。

なおこのために地元の行政府が配布場所の提供(公園)、トルコ軍が配布用テントを設置して協力しています。

現地での活動は、6月までを予定していますが、状況により変更される場合もあります。ハンガーゼロは、緊急募金によってこの活動を応援するとともに、3月以降に現地にスタッフを派遣することも検討しています。

シリア北部でも緊急キット配布へ

また、FHI(国際飢餓対策機構)は、シリアを支援するために作られた支援ネットワークを通じて、食料と衛生のキット約8千万円分を配布する計画を進めています。この活動にはKFHIも資金協力をします。

ハンガーゼロは、KFHIやFHIとの協力体制でトルコ地震被災者への支援をしていきます。ぜひ応援をよろしくお願いいたします。現地での活動の様子は、ホームページやSNSで随時お知らせしていきます。

【トルコ地震緊急募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590
一般財団法人日本国際飢餓対策機構「トルコ地震」と明記
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！

食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさとお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索